遠藤誉の著書『習近平が起こす地殻変動　「米一極」から「多極化」へ』を入手しました。

（私自身、日本の今後進むべき方向等について遠藤と見解を異にする部分はいくつかありますが、明確な事実を根拠に現状分析をしているという点では、読むべき価値が大いにあると考えています。）

上記書籍で注目できるのは、第二のCIAといわれるNED（全米民主主義基金）のホームページを当たり、多くのファクトを拾い上げてつくられたリストです。遠藤は驚いたと述べていますが、「世界の紛争のほとんどは1983年まではCIAが創り上げていて、1983年にNEDが創設されてからはNEDが創り上げていること」がわかったということです。

世界のどこかに内紛があると、必ずそこに潜り込んで既存の政府を転覆させ、親米政権を樹立させるということをくり返してきたことが、リストから歴然としてくる。**NED＝「第二のCIA」が「ウクライナ戦争の原因」をつくり「台湾有事」という「神話」を創りあげている、**というわけです。

〔ところで、ウクライナ戦争は、開戦から一か月経たないうちにトルコの仲介で停戦が実現しそうだったのですが、頓挫したのちにトルコの外相は以下のように述べました。「いくつかのNATOメンバー国は、戦争が長引くことを望んでおり、戦争を長引かせることによってロシアを弱体化させようとしている」と。いくつかの国の中心が米国であることは明らかでしょう。：補足〕

世界各地で紛争をあおる「謀略」・「暗躍」の証拠をわざわざ残すのか、という疑問は当然わいてきますが、**NEDは非政府組織を装いながらも現実には米国の国家予算で運営されている**ため、お金のどのような活動に使ったのか（少なくとも一時的には）公開しなければならないわけです。だからこそ、2014年に「ウクライナの親ロ政権」（軍事的には中立政策をとっていた）を崩壊させた**「ユーロマイダンクーデタ」に米国が関与していたことをオバマもバイデンも認めた**のでしょう。

No.	時期	紛争名	概要
1	1955-1975	ベトナム戦争	アメリカは1961年から内戦に介入し、1964年にトンキン湾事件を捏造して大規模な米ソ代理戦争に発展。アメリカによるクラスター爆弾、ナパーム弾、枯葉作戦など残虐を極めた爆撃。犠牲者数813万人、そのうち民間人死者458万人。
2	1958	レバノン危機	親米的なマロン派キリスト教政権に対するアラブ人の蜂起に対して、アメリカがレバノンに海兵隊1万人を上陸させ鎮圧した。
3	1959-1975	ラオス内戦	ラオス内戦に介入し、北ベトナムを相手としてアメリカが仕掛けた代理戦争。別名：アメリカCIAの「秘密戦争」。アメリカのラオスへの空爆回数は約58万回。９年間、8分に1回の空爆。爆弾量は200万トン以上。ラオス人1人当たり１トンの爆弾。史上最多。
4	1961	ピッグス湾事件	1959年1月キューバ革命後に誕生したカストロ革命政権に敵意を示したアメリカは1961年1月にキューバと国交断絶し、カストロ政権転覆のためCIAを中心にキューバ侵攻計画を進め、キューバ軍機に偽装した爆撃機でキューバを爆撃し、ピッグス湾に上陸侵攻した事件。
5	1965-1966	アメリカ軍によるドミニカ共和国占領	内戦中のドミニカが「第2のキューバ」になることを恐れ、米軍を派遣しドミニカを占領。
6	1970-1991	カンボジア内戦	第二次世界大戦後に誕生したシハヌーク国王下でのカンボジアにアメリカが介入し、ロン・ノル政権を誘導してシハヌークを国外追放し、22年間にわたる内戦を引き起こした。ベトナム戦争遂行のためにカンボジアに親米的な政権を作るのが目的。
7	1983	グレナダ侵攻	グレナダでクーデターが起きて、共産主義政権が誕生したため米軍が侵攻し、グレナダ革命軍事評議会政権を崩壊させた。アメリカが侵攻の理由として表明した中に、「グレナダの民主主義を守ること」などがある。
8	1983-1988	タンカー戦争	イラン・イラク戦争中のイランに対する大規模報復攻撃、さらにイラン航空のエアバスA300を撃墜し、民間人290人を殺害。アメリカはイラン革命政権に対する決定的な対決姿勢を貫いた。

9	1986	リビア爆撃	アメリカ空・海軍によって行なわれたリビア（アメリカの経済制裁対象国）に対する爆撃。リビアの最高指導者のムアンマル・カダフィの暗殺が目的。
10	1989-1990	パナマ侵攻	パナマ運河への既得権を守ろうして、反米的なノリエガ政権を排除するために侵攻。1988年にレーガン大統領は「パナマに民主主義が建設されるまでは制裁を続ける」とし、パナマ運河使用料支払い停止を発表した。
11	1990-1991	湾岸戦争	1990年8月2日のイラクによるクウェート侵攻に端を発し、アメリカのG・H・W・ブッシュ大統領は8月7日にサウジアラビア防衛支援の名目でアメリカ軍の派遣を決定、同盟国、友好国に軍事的・財政的協力を強く要請。アメリカ軍50万を中核とする多国籍軍が1991年1月17日にイラク攻撃の「砂漠の嵐」（爆撃し尽くす）作戦を決行。アメリカ政府は中東での戦争をきっかけに新世界秩序（New World Order＝NWO）構築を掲げたが成らず。世界の憲兵を自負するアメリカの大国主義（覇権主義）に国連の大国主義が追認した形。

No.	時期	紛争名	概要
12	1991–2003	イラクの飛行禁止区域施行作戦	イラク軍の武装解除を目的に、飛行禁止区域を設置し空爆。
13	1992–1995	ソマリア内戦への第一次介入	国連の国連安保理はPKO国連ソマリア活動のため、アメリカ軍を中心とする多国籍軍を派遣。
14	1994–1995	ボスニア・ヘルツェゴビナ紛争	ユーゴスラビアから独立したボスニア・ヘルツェゴビナで1992年から内戦が続いたが、94年に入ると、アメリカの介入により内戦が大規模化。アメリカはセルビア人勢力と敵対するクロアチア人勢力をワシントンに呼んで支援し、セルビア人勢力弱体化を図り、NATOに複数回の空爆を行なわせた。
15	1994–1995	ハイチ介入	軍政となったハイチにアメリカ軍を主力とする多国籍軍が介入。
16	1998–1999	コソボ紛争	コソボ紛争末期にNATOによる大規模な空爆。
17	2001-2021	アフガニスタン紛争	アルカイーダの庇護者とみなされたタリバン政権の転覆のために侵攻。
18	2002-現在	イエメンへのドローン攻撃	イエメンのアルカイーダをドローンで空襲。
19	2003–2011	イラク戦争	イラクが大量破壊兵器を保持しているという偽情報に基づいて、国連決議を経ずにイラクに侵攻。大量破壊兵器はなかったが、８年間に及ぶ攻撃で中東諸国に多大な犠牲。
20	2007–現在	ソマリア内戦へのアメリカの第二次介入	イスラム法廷会議を「アルカイーダに操られた組織」と、一方的に断定して介入。
21	2009–2016	オーシャン・シールド作戦	ソマリア沖の海賊対策の派遣。
22	2011	リビアへの国際介入	カダフィ政権の崩壊を目指すためにリビア内戦へ介入。
23	2011–2017	オブザーバント・コンパス作戦	ウガンダの反政府武装勢力「神の抵抗軍」を掃討。
24	2015–2019	アメリカのリビア介入	ISIS（イスラム国）に対する国際的戦役の一環として介入。
25	2014–現在	イラクへのアメリカ主導の介入	ISIS（イスラム国）に対する国際的戦役の一環として介入。
26	2014–現在	シリアへのアメリカ主導の介入	ISIS（イスラム国）に対する国際的戦役の一環として介入。

筆者作成（『習近平が狙う「米一極から多極化へ」　台湾有事を創り出すのはCIAだ！』の図表6-2）

しかしながら、なぜ米国はこのように戦争や紛争をあおり続けるのでしょうか。池上彰が特番（「なぜ世界から戦争がなくならないのか」）で示した以下の資料（一部）からも明らかでしょう。それにしても、自国の軍需産業を潤すために世界各地で戦争や紛争をあおり続けるようなことが許されることなのか。日本政府が’（ベトナム戦争やイラク戦争を全面的に支持するなど）米国の政策に追随することは極めて犯罪的であると考えるものです。

〔米国が引き起こした戦争や紛争の犠牲者数についても遠藤誉は資料に基づいて試算していますが、それが正しければ第一次世界大戦の犠牲者数を超えています！〕

沖縄と連帯するとっとりの会